

## 第5回障害者スポーツ振興ワーキンググループにおける主なご意見等 (障害者スポーツセンターの在り方について)

### <全体>

- 障害者スポーツセンターの機能についてよくまとめられているが、スポーツ施設としての場も含めて、人なり人材なり、ある程度しっかりしたものがないとこの取組は進まない。バーチャルだけでいいと思われないようにする必要がある。
- 体育の保健体育科の教員免許取得において、パラスポーツに関する知識・技能を身に付けていただくための方策を検討いただきたい。
- 東京都の利用促進マニュアルのような取組が全国展開していくような流れができるとよい。
- 学校現場から考えると、子供達が、障害者スポーツにどのように出会うかが大事。教員養成や初任者研修会等において、特別支援教育、障害者スポーツについてもしっかりと学ぶ機会があったらいいと思う。
- 東京都には特別支援学校・特別支援学級設置学校体育連盟があるが、加盟料が公費で負担されていない。中体連は公費負担。そういった課題もある。
- 地方公共団体において、地域の障害のある人や関係者の声が反映される仕組みを考える必要がある。
- 広域行政としての都道府県や政令市の範囲で行う障害者スポーツ振興の方策は、1つのセンターをつくってそれで完結できるものではない。学校開放や民間スポーツ施設の協力も必要となってくる。
- 障害者スポーツセンターをハブ施設として、医療、教育、福祉と連携を強化していくことが必要という話があった。東京都障害者総合スポーツセンターにおいては、障害者がスポーツをできる施設運営は継続しつつ、スポーツにアクセスしづらい、難しい方々の支援を充実させる事業展開を行っている。

### <3. (2) 障害者スポーツセンターに期待される機能>

- 学校の体育の先生が相談をできるなど、学校・教育関係との連携について記載をお願いしたい。

- 身近な地域で障害のある方がスポーツに親しめる環境を整備していく上では、拠点が増えていくことが必要であり、特に、民間のクラブを増やしていくことに関してセンターがどのような機能を果たしていくかが重要ではないか。
- 車いすについては、学校への貸し出しや情報提供が、学齢期の障害のある子どものスポーツ参画につながる観点から有意義ではないか。
- 競技用の道具について、リハビリを受けている方が情報を得て、すぐにスポーツセンターで体験ができるような仕組みができるとよい。
- センターには、障害当事者が病院を出た後に地域において孤立してしまうのを防ぎ、社会参画の促進に向けた準備段階としての機能もあると思う。
- 現段階のセンターでは、保護者でなくガイドヘルパーが子供を連れてくるパターンも多い。ガイドヘルパーとの連携や活用を少し検討できれば。
- 理学療法士で障害者スポーツセンターの存在を知らない方もたくさんいる。関係者にセンターを知ってもらい、自分が担当している患者さんに情報提供するだけでも大きなきっかけになるのではないか。
- 障害者スポーツ用具の体験会を自治体だけではなく、理学療法士会等とリンクさせていくと医療との連携につながっていくと思った。
- 情報提供は必要な人に届かなければ本当の意味での情報提供ではないと思うので、受け手のことも考えた上で双方向な情報提供が重要なことだと思う。
- 相談の役割においては、医事相談だけではなく健康相談も加えていただければと思う。

### ＜3.（3）障害者スポーツセンターに必要と考えられる人材＞

- コーディネーターの存在は非常に重要だと思っている。双方向のコミュニケーションや地域の情報やネットワークなど地域性にかなったコーディネートが必要になってくる。
- コーディネーターには、利用者や保護者など関係者の相談窓口になってほしいと思う。
- 障害者スポーツセンターは、コストパフォーマンスを追求するよりもコストベネフィットを追求するような施設であると思う。スポーツによる利用者の利益を測定、設計できる

ような人材が必要ではないか。

### <3. (4) 障害者スポーツセンターに必要な施設・設備>

- ハード面において、ハードルを下げ過ぎないようにしつつ、複数の施設をセンターに位置付けるなど地域の実情に合わせて設定できるとよい。
- 障害当事者が安心して利用できる施設になれば良いと思う。
- 東京や大阪のような設備が充実した専用施設を設置することは現実的ではないかと思う。共用施設や優先施設など複数の施設で障害者スポーツセンターの機能を構成していくやり方も今後必要になってくるのではないか。
- 施設については、まず安全安心というのが第一で、その上でユニバーサルデザインがしっかりした施設であるといいと思う。避難経路などの視点も重要である。
- 施設面では、介助用のベッドや、駐車場への屋根の設置などきめ細かい配慮が必要。

### <3. (5) 障害者スポーツセンターの整備の進め方>

- PFI など民間活力の導入の可能性も入れた方がよいのではないか。
- ソフト面も重要であるが、ハード面の改修や新設が必要な場合もある。
- 地域におけるニーズが非常に大事となるが、その際、ハードの視点、ソフトの視点、人材の視点を織り交ぜた視点を持っていくということ、明記していただければ。
- 新しく障害者スポーツセンターをつくらなければならないとすると、はなから向いてもらえない可能性もあり、そういった意味で機能を強調して記載しているが、ハード面が必要ないということではなく、バーチャルでいいということではなく、ハードの改修、廃校も含めて既存施設の活用等による整備等、誤解がないように仕上げていく必要がある。
- 障害者スポーツセンターは都道府県レベルに少なくとも1つ以上整備しようということが目標である。どのように進めるかを書いておいてほしい。

### <4. 国等による支援>

- 大都市にはいると思うが、地方でコーディネーターを確保することはハードルが高いと

思う。そのため、コーディネーターの養成を進めていく必要があり、国が支援していくべきではないか。

- バリアフリーからユニバーサルデザインという点は大変重要なことと思う。障害者スポーツセンター協議会の中でも情報共有いただけるといいと思う。
- 支援対象の明確化、センターのPR、品質の確保のためにも、認定制度の創設が望ましい。